キャラクター名
湊 宇美(みなと うみ)

プレイヤー名

シンドローム	ソラリス ソラリス	ワークス	UGN支部長D	カヴァー	小学生
オプショナル		年齢	29	性別	女
覚醒		衝動	加虐	初期侵食率	15 %
出自	安定した家庭	経験	ドリームランド	邂逅	恩人

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	0	0	2			2
感覚	0	0	1			1
精神	2	0	0			2
社会	6	1	1			8

HP	26
行動値	4
(非装備時)	4
戦闘移動	9
全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			ＲＣ			交渉	9	
回避			知覚			意志	1		調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
透明の声α	交渉	8r+11	12			絶対の恐怖+コンセントレイト
透明の声β	交渉	8r+11				絶対の恐怖+神の御言葉+コンセントレイト
透明の声Σ	交渉	8r+11				絶対の恐怖+神の御言葉+コンセントレイト+オーバードーズ

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
すごい服	16	1			装備している間〈交渉〉の判定値に＋2

合計装甲：	1	合計回避：	0

所持品

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
カウンターレネゲイド	P	N		
霧谷 雄吾	P 幸福感	N 脅威		
家族	P 慈愛	N 無関心		
学校の友達	P 友情	N 疎外感		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 16	残り財産P： 16

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
絶対の恐怖	7	3	メジャー	視界	-	対決	-	
効果： 交渉攻撃[攻撃力：+LV] 装甲無視								
神の御言葉	3	3	メジャー	-	-	対決	リミット	
効果： 《絶対の恐怖》の攻撃力を[LV×5] １シナリオ３回								
オーバードーズ	1	4	ﾒｼﾞｬｰｱｸｼｮﾝ/ﾘｱｸｼｮﾝ	-	-	-	100%	
効果：こエフェクトのと組み合わせた判定では、組み合わせたエフェクト全てのレベルを+2する。この時、LVの上限を超えてもよい。ただし、この効果ではエフェクトの使用回数は増加しない。1シナリオ1回。								
コンセントレイト:ソラリス	2	2	ﾒｼﾞｬｰｱｸｼｮﾝ	-	-	-	-	
効果： クリティカル値-LV(下限値7)								
麗しの容貌	★	-	常時	近接	自身	-		
効果： 何時でもかわいい								
声無き声	★	-	-	視界	対象	自動成功		
効果： どこに居ても私の声が聞こえるよ。								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

UGNで臨時の支部長になってしまった少女。
周りからは優秀なチルドレンとして評価されてるようだが本人は自信がないようだ。

数年前、自身が暮らしていた世界が邪神により滅ぼされていくのを目撃している。
その後何者かにドリームランドへと飛ばされ、正気を削られていく数日間を過ごした。
死を覚悟し、動く事を諦めたころ何者かに導かれドリームランドからの脱出に成功する。

今いる世界に対して、なんとなく自分はよそ者なのではと疎外感を感じている。
再び世界が滅ぶ事への、自分の居場所がなくなる事への恐怖心を強く抱いており、少し挙動不審なのではと言うほどに周りを気にしている。

『あの、お役に立てるよう…頑張りますね。』

……
実のところをいうと、自分の世界を滅ぼした邪神を、力を心の底から憎んでおりどうしようもなくドロドロとした感情を抱えている。

口では争う事が怖いと言っているが、その実『奴らをどうしようもなく滅ぼしたい願望』を正当化できる現状に安堵感を覚えている。

幼い頃から人の幸せを願える子であるよう言われて育ったが、世界の崩壊を見た日から当たり前のように幸せそうに過ごす数多くを妬ましく思ってしまい、その度に落ち込んでいる。

自分について『もう天国に行かないから。』と断言している。
『だから貴方のそれが正義だとしてもね、滅ぼすことが辛くないの。』